

目 次

口 絵 文 例 凡

第三編 中 世

はじめて

第一章 鎌倉時代

第一節 諏訪武士の成立

三 三

一 諏訪武士団の台頭

三 三

諏訪武士の登場／諏訪神社の莊園化

二〇 三

諏訪氏・金刺氏の武士団化

二 三

二 諏訪氏分流の発展／金刺氏の流れ

三 三

三 源頼朝と諏訪神社

一 三

一 賴朝と金刺盛澄

一 三

第二節 諏訪武士団の活躍

三 三

一 承久の乱と諏訪武士の動向

三 三

承久の乱の勃発と信濃武士／承久の乱と諏

訪武士の動向／諏訪氏分流の活躍

二 鎌倉幕府と諏訪氏

三 三

諏訪盛重の鎌倉出仕／祢津氏と諏訪氏／藤

三 三

沢氏と千野氏

第三節 御射山祭と頭役

一 三

目 次

一 諏訪上下社の御射山祭	三
御射山社／盛大な御射山祭／御射山遺跡の 発掘	
第二章 室町時代	
第一節 中先代の乱と諏訪神社の動向	四
一 北条時行	四
北条氏の滅亡と諏訪氏／北条時行の諏訪潛伏／時行の鎌倉進攻	四
二 大祝頼継とその後の北条時行	五
大祝頼継の原山隱棲／大徳王寺城の戦	五
尊氏・直義の対立と諏訪	五
楨応の擾乱／直義の死と諏訪	五
二 宗良親王と諏訪	毛
宗良親王と信濃／宗良親王と諏訪氏の動向／「桔梗原の戦」とその後の諏訪氏	毛
三 足利義詮と下社	六
第三節 大塔合戦と諏訪武士団	六
二 頭役勤仕と諏訪郡内諸郷の負担	二
地頭・御家人の頭役／諏訪郡内諸郷の頭役 分担	
第四節 諏訪上下社の対立と諏訪惣領家の確立	二
一 諏訪上下社の対立抗争	二
諏訪下社と小笠原氏／諏訪と甲斐との抗争／諏訪氏と両小笠原氏／諏訪氏の伊賀良出陣と東西両大町の暴動／諏訪政満の筑摩出陣	二
二 諏訪惣領家の確立	七
惣領家・大祝家の分立／文明十五・十六年の騒乱／干沢城の戦／諏訪下社大祝金刺氏の滅亡／諏訪惣領家の確立	七

第三章 戦国時代

第一節 諏訪頼満の活躍

一 武田信虎の諏訪侵入

武田信虎の甲斐統一／武田信虎の国外進出

二 武田氏と武田氏との和議

諏訪頼満の甲斐進出／堺川の和議

三 武田・諏訪家の婚姻の成立

諏訪頼重諏訪領主となる／祢々御料人の興

入られ

第二節 上原城の落城と諏訪惣領家の滅亡

一 武田信玄の諏訪侵入

信虎の追放と信玄の自立／武田信玄の諏訪

侵入

第三節 武田信玄の信濃征服の拠点上原城

上原城の落城／諏訪頼重の自殺／頼重死後の諏訪

二 諏訪頼重の敗戦

上原城の落城／諏訪頼重の自殺／頼重死後の諏訪

三 武田信玄の諏訪統治

信玄の諏訪安定政策／上原城の修築／郡代

第四節 武田氏の滅亡と諏訪

一 武田勝頼と諏訪

伊那郡主諏訪四郎勝頼／十日町の繁栄と伝
馬役／新府城築城

二 高遠城の落城

木曾義昌の離反／高遠城落城／武田氏の滅

亡

第五節 武田信玄の信濃征服の拠点上原城

一 武田信玄の諏訪統治

信玄の諏訪安定政策／上原城の修築／郡代

政治と諏訪武士の動向／諏訪諸侍の軍隊構成／諏訪五十騎／千野同心衆／高島十人衆／城下町上原

二 武田信玄の信濃侵略と軍用道路

信玄の伊那攻略／塙尻峠の合戦／軍用道路

の開設／川中島合戦と諏訪／信玄の関東進

出と諏訪武士／武田信玄の上洛計画／信玄

の陣中死

三 武田氏の滅亡と諏訪

伊那郡主諏訪四郎勝頼／十日町の繁栄と伝

馬役／新府城築城

四 武田氏の滅亡と諏訪

木曾義昌の離反／高遠城落城／武田氏の滅

亡

第四章 中世の城館跡

第一節 諏訪の城館跡	一四七	(2) 榎道と湯川砦	一五三
一 城館跡の分布	一四七	(3) 湯川砦の縄張り	一五三
二 城館跡の概要	一四七	(4) 榎形城の馬出し	一五三
第三節 茅野市域の城館跡	一四七	(5) 経塚	一五三
一 上原城（古城・小城）	一五	八 栗沢城（和田城・御陣屋・御屋敷・諏訪越 中守屋敷）	一五六
二 干沢城（樋沢城・安国寺城）	一五	九 茅野城（駒形城）	一五六
三 齢松山城（しろやま）	一五	一〇 御天城（御天上・御殿城）	一五六
四 鬼場城	一六	一一 シラザレ城	一五六
五 埴原田城（茶臼山城）	一六	一二 古田城（寺山）	一五六
六 朝倉山城（塙沢城）	一六	一三 槻木城（城山）	一五六
七 湯川砦（原の城・耕形城）	一六	一四 茅野市域のその他の城館跡	一五六
(1) 砦の沢	一七		
第五章 中世の村落と交通・市場	一五三		
第一節 中世諏訪の村落	一五三		
一 文献による諏訪の村落	一五三		
『祝詞段』による諏訪の村落名／『年内神事次第旧記』の村落名／諏訪神社上社と村	一五三		
二 諏訪の武士と農民	一五三		
三 中世の村落遺跡	一五三		
代神主	一五三		

発掘された中世の村落遺跡／御社宮司遺跡
の遺物と畔構／構井遺跡の遺物／砂原
遺跡の遺物と遺構

交通路の概観／信濃と諏訪の鎌倉道／塩田
道

諏訪の峠道

二 諏訪の峠道……………三六

四 中世の食生活と漁法……………二六

中世の食生活／中世の果樹類／諏訪湖の漁

法（鯉馳）

五 諏訪地方の災害……………二八

大町・その他の災禍／諏訪地方の天災

第二節 中世の交通と市場……………三一

一 中世諏訪の交通路……………三一

三 経済の発展と市場……………三九
信濃における莊園の年貢納入／代錢納と錢
の流通／定期市の開設／宿駅・城下町と商
人らの活躍／甲州金と金鶏金山

第六章 中世諏訪地方の社寺信仰

第一節 諏訪信仰の発展……………三五

一 鎌倉幕府と諏訪信仰……………三五

源頼朝と諏訪信仰／北条氏と諏訪信仰

四 公家社会の諏訪信仰……………三四
御射山祭と和歌／『画詞』の成立と諏訪円
忠／後奈良天皇の勅筆心経

二 諏訪神社の分祀……………三六

上社御射山祭と雜錄／信濃国内の分祀／諸
國の諏訪社

五 諏訪信仰の普及と郷村……………三八
大祝相続と村代神主／神使巡行と豊作祈願
／布教と鹿食免

三 諏訪信仰と室町幕府……………三一

將軍の諏訪信仰／御射山祭と莊郷の頭役勤

信濃諸豪族の諏訪信仰／武田信玄の祭祀再興／『信玄十一軸』と今後の研究課題	一四九
御座石神社／葛井神社／酒室神社／達屋・醸藏神社	一一五
第三節 諏訪地方の寺院信仰	一一九
一 安国寺の創設と諏訪円忠	一一九
二 上原城下の寺院	一二三
三 茅野市域内のその他の寺院	一二五
四 諏訪地方のその他の寺院	一二七
第五節 極楽寺／その他の諸寺	一二九
一 上社遙拝所奉仕の祭神	一二九
二 市域内の神社とその信仰	一三三
第六節 中世の守矢家文書	一三七
第一章 高島藩の政治	一五二
第一節 織豊時代	一五二
統一政権への編入／豊臣大名の入封／知行	一五二
制度／高島築城／城下町の成立／日根野氏	一五二
の政治	一五二
第二節 蕃体制の確立	一五七
藩領の確立／家臣団／知行制度／支配機構	一五七
の成立	一五七
第三節 蕃の財政	一五九
藩財政の窮乏／借用金／御借上／御借用	一五九
第四節 郡中法度と家中法度	一六〇
はじめに	一六一
第四編 近世	一六一
八 御柱曳建	一六五
御柱曳建の起源とその推移／造宮帳にみる	一六七
御柱の概要	一七一
第九節 茅野市域内の神社とその信仰	一七一
一 上社遙拝所奉仕の祭神	一七一
二 市域内の神社とその信仰	一七五
第十節 中世の守矢家文書	一七九
第一章 高島藩の政治	二〇二
第一節 織豊時代	二〇二
統一政権への編入／豊臣大名の入封／知行	二〇二
制度／高島築城／城下町の成立／日根野氏	二〇二
の政治	二〇二
第二節 蕃体制の確立	二〇七

法制の整備／郡中法度／家中法度

第五節 宗門改と鉄砲改 三〇一

庶民の宗旨改／宗門改帳／武士などの宗門

改／宗門改と身分／子午改／鉄砲改

第六節 二之丸騒動 三〇七

騒動の原因

第二章 古村と新田.....

第一節 古 村 三三

茅野市域の古村／矢ヶ崎村／塙原村／埴原

田村／北大塩村／塙沢村／柏原村／湯川村

／芹ヶ沢村／南大塩村／塙之目村／中村／

古田村／福沢村／中沢村／神之原村／栗沢

村／田沢村／青柳村（金沢宿）／茅野村／

安国寺村／高部村／上原村／新井村／横内

村／中河原村

第二節 新田の成立 三四

茅野市域の新田／下赤田新田／和田新田／

山田新田／坂室新田／堀新田／山口新田／

荒神新田／糸萱新田／権現原新田／穴山新

田／田道新田／笛原新田／宮原新田／御作

二之丸派と三之丸派／新役所とその施政／難波館条書上／明和一件／二之丸派の執政

／安永一件／三之丸派の執政／二之丸派の

画策／三之丸派の反撃／二之丸派の処断／

二之丸派と三之丸派／新役所とその施政／難波館条書上／明和一件／二之丸派の執政

／安永一件／三之丸派の執政／二之丸派の

画策／三之丸派の反撃／二之丸派の処断／

目 次

八

第三章 檢地と土地制度

三二

第一節 茅野市域における検地の実施

三三

伊奈検地／日根野検地／諏訪頬水の検地／

初期総検地／初期再検地／元禄（宝永）の

高改／享保の高改／中期再検地／後期再検

地／文政の高改／新切・切次の検地／畑直

検地／百姓改の検地

四〇三

第五節 土地制度

四六

家中名請／家中名請けの成立／家中名請地
の権利・義務／内付百姓と分付百姓／家中
名請の衰退

検地実施の準備／検地竿・頭付・石盛／宛
竿／竿入れ／割引と祝儀散歩／産米の配分
と津の決定／検地目録の作成／砂引検地／

荒所永引

第四章 貢租と課役

四六

第一節 藏入地の貢租

四七

藩財政のしくみ／検地目録と村高・物成／

物成の算出／御借用／永引・年賦引・当引

／正米納／買上納と名主未進／御成備徳帳
と勘定帳／各新田の物成／物成負担の実態

第二節 藩士知行地の貢租

四八

第三節 貢租米の商品化

四八

地方知行／地方知行時の貢租／地方召上後
の貢租／給所の課役

貢租の商品化／御払米と買上納／正米の配
分／正米の払い下げ／江戸廻米

第四節 小 物 成

四九

第三節 檢地と村高

四三

茅野市域の村高／検地に見る地域性／村高
の推移／水田の增加

第四節 林 檢 地

四三

林検地／山手米・大豆／年季明けの措置

小物成の種類／蓬・菖蒲・漬蕨・麻綿上納

金／冥加金と褒賞

桂葉／ねこ・庭・菜・大根・渋・薬・寒

第六節 課役と高掛物……………四五三

晒蕎麦／松節

御役儀／抜高／抜高役儀高帳／役儀の減免

第五節 運上と冥加……………四六一

運上の系統と種類／諸職人の冥加金／冥加

／課役の賦課／追鳥

第五章 村のしくみ……………四六八

第一節 村と村役人……………四六九

村のしくみ／村役人／村役人の選出／村寄

合／世話役／世話役の活動／世話役と村役

人……………四七〇

第二節 村 定……………四七一

村定／村定と時代／村定の内容(一)全般／村

定の内容(二)衣食住／村定の内容(三)義理／村

定の内容(四)行事／村定の内容(五)その他／村

定の違反／村連外／詫状……………四七二

第三節 村の財政……………四七三

歩割／歩割仕法／歩割の実際と歩割元帳／

時割／村金／村割……………四七四

第四節 村人と助け合い……………四七五

第七節 藩 と 村(一)……………五三七

第六節 藩 と 村(二)……………五六一

御巡見／献上場と献上品／御巡見の行列と
問わざ語り／御巡見と村人／幕府の巡見使
／巢鷹／鷹野／御待屋／一般の待屋／留野

第五節 農民階層の変化と村方出入……………五六〇

農民階層の変化／中村の役論／筆原新田の

席論／丸山新田の名寄帳一件／上古田村の

名字一件／木船新田の小作一件／芹ヶ沢村

の若者一件／神之原村の野帳一件

目 次

一一〇

村次／町宿／奉公人／御乳持／犯科の処理
／闕所と所払／駆込み／孝行節婦／家老嬢

の行事／身分の差／挨拶・接待／寺と納豆

第六章 農業と水利……………

第一節 耕地の増大……………

田山の汐の変更／鬼場新汐／大河原汐／車

農業生産の増大策／耕地の拡張

沢汐・相之倉沢汐

第二節 湧水灌漑と揚げ汐……………

寛政以降の汐の推移……………

湧水と小河川／用水／水利権と管理／揚げ

汐の開削／田沢汐／柳川三か村汐／柳川四

か村汐／古壺ノ羽汐／楓木新田新汐／古

田村の用水／波汐／中村用水汐／鑄物師屋

汐

第三節 明和・安永期の用水紛争……………

（六五）

新役所の開発政策／柳川古一之瀬汐の開削

／ゑこ川新汐／古田村用水／中村用水／鳴

岩川と柳川筋の水量裁定／明和八年柳川新

汐紛争／明和八年一之瀬汐紛争

第四節 天明・寛政期の繰越汐……………

（六三）

坂本養川の献策／水回し計画／滝之湯汐の

開削／諸汐の開削／鳴岩川北汐の消滅／古

第八節 農業經營……………

（六一）

農作物／稻の品種／農作業と農具／肥料／

（五三）

第六節 山手の開発……………

（五三）

第七節 土地の集積と小作……………

（五九）

吉田山／小野子山開発／切替畠／山の耕地

（五九）

土地売買／小作……………

（五九）

冬水掛／石灰／養蚕／風除／鹿垣／威銃／
木障／農業と行事

馬改めと毛付／馬の飼育／番飼／その他の
馬畜

第九節 家畜 六二

第七章 林野と入会.....

第一節 国郡境論 六八

蓼科山論(一)／蓼科山論(二)延宝の裁許／蓼科
山論(三)天和・元禄の訴状／蓼科山論四その
後の蓼科山／大河原山争論

第二節 入会権と慣行 六五

入会権と入会山／入会山の採取物／入会慣
行(一)山の口明け／入会慣行(二)採取の制限／
入会慣行(三)制限の強化／総入会—御鹿山の
総入会／割山入会—御鹿山の割山／入会と
御鹿山の開発／札山入会／札山の利用／札

第三節 入会山と争論 七五

山の拡大／札の取り扱い
山論／茅野草山(一)茅野村と金沢町の争論／
茅野草山(二)茅野村と八か村の争論／茅野草
山(三)九か村と木船新田の争論／大沢山／原

第四節 御林 七五

茅野市域の御林／御林方の役人／御林の管
理／管理と植林／藩の用材伐採／採取物の
払い下げ／御払山

第五節 家中林 七八

家中林の成立／家中林と所有權／家中林に

における採取権

第六節 村林と百姓林……………六四

村林・百姓林の成立／宝永の林改／正徳・

享保の林改／林改と山手／村林の利用／割
林／宝曆の新林潰し／神之原村下草出入

第八章 諸産業と経済……………

第一節 鋸と寒天……………八一

鋸業／鋸業のおこり／ふいご祭と金山講／

初期の鋸製造法／鋸業発達の要因／寒天業

／寒天業のおこり／初期寒天業の推移／て

んぐさの搬入経路／江戸時代末ごろの寒天

業……………八二

第三節 諸職人……………八七

職人／紺屋／大工／杣・木挽／狩獵／鳥獣

／川漁／その他の職人／職人と運上

第四節 出稼と日雇……………八六

出稼の統制／年季と半季／五十日暇と百日

暇／海苔稼ぎ

第五節 商業の発達……………八四

金沢町の商業／茅野村の商業／在の商業と

村人……………八五

第二節 種々の産業……………八三

水豆腐／鉛山／湯の花／綿打ちと生糸／小

倉織／酒造／紙／水車／流木／産業への試

み／穴山の漆器

第九章 交通運輸の発達……………

第一節 甲州道中と金沢宿……………八四

甲州道中と金沢宿の制定／金沢宿の構成と

機能／間の宿茅野村／問屋のあった湯川村

／分見測量／九一色郷荷物一件

第二節 伝馬助郷……………八四

金沢宿の伝馬役／金沢宿の財政／助郷の制

八四

定／助郷触れ当て／増助郷／和田助郷一件

／大助郷と定助郷／幕末の通行と助郷

第三節 特別な通行と旅行者……………八三

参勤交代／御茶壺道中／一般の旅行者と往来

手形／村送り／飛脚／甲州道中の旅／中

山道の旅／急ぎの道中／いろいろな旅

第四節 峠の交通……………八五

大石峠／砥荷物一件と物資付け越し／大石

峠の穀留め／大門峠と穀留め／杖突峠と穀

留め／松倉峠／松倉峠と穀留め

第五節 生活の道……………八六

第六節 中馬の展開……………九七

中馬の発展／市と山浦／橋／札の辻／雪かき

和の紛争／駄賃と敷金／運上と中馬札／天

明の申し渡しと寛政の定書／寛政・享和の

付出錢一件／中馬組合／その後の動向／中

馬の商売日記

第七節 通船と中馬……………九五

天竜通船／富士川通船と中馬／塩の搬入

第三節 火事……………九三

第十章 災害と対策……………九三

第一節 囚作飢饉……………九三

延宝の飢饉／宝暦の飢饉／天明の飢饉／天

保の飢饉／飢饉の食物／常盈倉と郷倉／融

通米／御情米／御救い米／穀留め

第二節 水害……………九五

上川の川筋／宮川と取立川／三か村の水害

管疫病／痘瘡／コレラ／疫病と療治／狼・

山犬・病犬

／川除／水害と橋

第十一章 文化と教育

九三

- 第一節 儒学・心学と和算 卷三

儒学と長善館／心学と好問舎／和算
医学と医師／医学の発達／茅野市域の藩医／村々の医師

卷四

- 第二節 医学と医師 卷四

医学の発達／茅野市域の藩医／村々の医師
／河合正阿

第五節 建築と彫刻 卷五
大隅流と立川流／大隅流の建造物／立川流
の建造物／木彫の仏像

九七

- 第三節 寺子屋と庶民の教育 九九

寺子屋の普及／村と寺子屋

第六節 石造物 一〇三
仏教にかかる石造物／その他の石造物

- 第四節 文芸と書画 六九

第十二章 庶民の宗教と信仰

一〇七

- 第一節 村々の産土社 一〇七

茅野市域の神社／産土社と村祭り／ちの地区
の産土社／米沢地区の産土社／北山地区
の産土社／湖東地区的産土社／豊平地区的产
土社／泉野地区的产土社／玉川地区的产
土社／宮川地区的产土社／金沢地区的产
土社／宮川地区的寺院・堂舎・行屋／金沢

- 地区的寺院と行屋 一〇八

一〇九

- 第二節 寺院と堂舎 一〇八

江戸時代の仏教／茅野市域の寺院堂舎／ち
修驗道の普及／本山派／当山派／三山派ほ

一一〇

諏訪百番と八十八ヶ所靈場／六十六部回國
巡礼／善光寺参り／御師の回村と勧化

第四節 講と代参……………

村々の講／お日待と代参／講と石造物

〔四〕

第五節 四国巡礼・その他の信仰……………

〔五〕

第十三章 庶民の生活……………

第一節 家と同族……………

〔五〕

家族／相続／隠居／同族／婚姻

第二節 義理……………

〔五〕

不幸／祝儀／屋根普請／その他の見舞

第三節 衣・食・住……………

〔四〕

麻の衣類／木綿の衣類／絹の衣類／野良着
／普段着と晴れ着／その他の衣類／主食／
調味料・漬け物／菓子・くだもの・その他

第十四章 諏訪社領と神事祭礼……………

第一節 諏訪社領の成立……………

〔四〕

神官・社人の知行／御頭御符料／賽錢の配
分／名請地／名乗・神鉢免許

成立／高島藩主の寄進

〔五〕

第二節 諏訪社領の検地……………

〔五〕

神官・社人……………

〔五〕

目 次

一六

第四節 諏訪社領の貢租課役 二二

検地目録と割目録／上社領の本途物成／小

地頭への上納／社領の小物成／社領の運上

／高島藩の課役／御造營の課役／小地頭の

課役 二三

第五節 社領の支配 二三

社領と藩領

第六節 神事と祭礼 二三五

江戸時代の主な神事と祭礼／下社の神事

第十五章 藩体制の崩壊 二四六

第一節 藩体制の行きづまり 二四六

家臣団の再編成／藩財政の窮乏

第二節 幕末の混乱と諏訪 二五〇

崩壊期の世情／米船の渡来／和宮の降嫁／

権橋戦争

第三節 戊辰戦争と諏訪 二五三

年 表 二五三

索 引 二五五

第七節 御柱祭 二五六

御柱祭の由来／盛大な御柱祭／上社御柱と

里曳き人足／上社御柱と神斧

第八節 御頭郷 二五六

御頭郷の成立／御頭と新田／御頭役奉仕／

御流頂戴席論

第九節 社寺の紛争 二四七

転位金一件／神道葬祭免許／その後の神道葬祭

江戸時代の主な神事と祭礼／下社の神事

二四八

二四九

二五〇

二五一

二五二

二五三

二五四

二五五

二五六

高松殿と神官／赤報隊／甲州路出兵／越後
口出兵

第四節 御一新 二五〇

廢仏毀釈／藩治体制の改革／版籍奉還／廢

藩置県